

付属資料・目次

特記仕様書（抜粋）

案内図、配置図、周辺配置図

平面図

特 1

1

2

京都大学（中央）本部棟屋上防水改修工事

I 工 事 概 要

1. 工事場所 京都市左京区吉田本町（京都大学本部構内）
2. 完成期限 令和 7 年 9 月 3 0 日（火曜日）

3. 建物概要

建 物 名 称	本部棟		
工 種	修繕		
構 造	S R C		
階 数	5 ～ 1		
建築基準法による	建築面積 (㎡)	1,276	
	延べ面積 (㎡)	7,956	
消防法施行令別表第一の区分		(7)	
改 修 面 積 （ ㎡ ）		1,390	
備 考			

4. 工事種目（○ 印の付いたものが対象工事種目）

工 事 種 目	建 物 別 及 び 屋 外		
	本部棟		
○ 2 仮設工事	一式		
○ 3 防水改修工事	一式		
・ 4 外壁改修工事			
・ 5 建具改修工事			
・ 6 内装改修工事			
・ 7 塗装改修工事			
・ 8 耐震改修工事			
・ 9 環境配慮改修工事			
・ プール改修工事			
・			

5. 指定部分 ○無 ・ 有 対象部分（指定部分工期 令和 年 月 日（ 曜日）
6. 概成工期 ○無 ・ 有 令和 年 月 日（ 曜日） (1.2.1) [1.2.1]

II 工 事 仕 様

1. 共通仕様

- (1) 文部科学省発注工事請負等契約規則（文部科学省訓令第二十二号）別記第1号の工事請負契約基準、現場説明書、図面 枚及び本特記仕様書 枚によるほか、○印の付いたものを適用する。

○ 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)(以下「標準仕様書」という。)

○ 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)(以下「改修標準仕様書」という。)

○ 建築工事標準詳細図(令和4年改定)(以下「標準詳細図」という。)

・ 建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)

○ 文部科学省建築工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科仕様書」という。)

○ 文部科学省建築改修工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科改修仕様書」という。)

○ 工事写真撮影要領(令和5年9月)

（2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事を含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事は、それぞれ工事特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（ ）図、機械設備工事の特記仕様書は（ ）図による。

2. 特記仕様

- (1) 本特記仕様書の表記

1) 項目は、○ 印の付いたものを適用する。

2) 特記事項は、○ 印の付いたものを適用する。

○ 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。

○ 印と ⊗ 印の付いた場合は、共に適用する。

3) 特記事項に記載の（ ） 内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の〔 〕 内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の(()) 内表示番号は、文科仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の[[]] 内表示番号は、文科改修仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

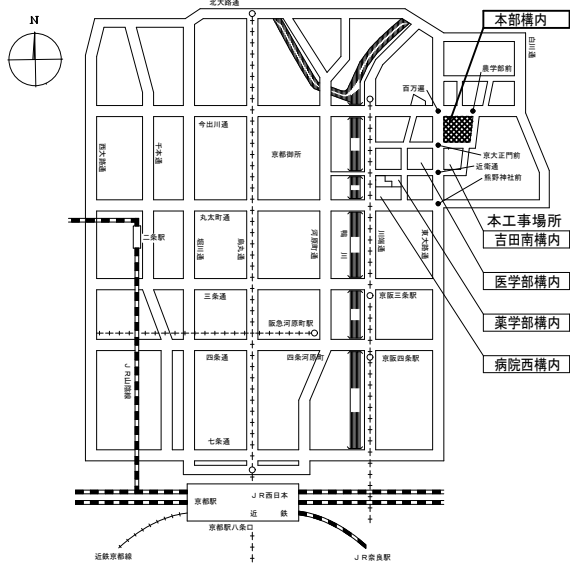
4) ㊦ 印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成31年2月8日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものを示す。

章	項 目	特 記 事 項																			
1 各章共通事項	・ 適用区分	○ 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ○ 風圧力 風速 (Vo= 3.2 m/s) 地表面粗度区分 (・ I ・ II ○ III ・ IV) ○ 積雪荷重 平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域 別表 (3.2) (1.3.3～4) [1.3.3～4]																			
	○ 電気保安技術者 工事用電力設備の 保安責任者	この工事現場に下記いずれかの資格を有する電気保安技術者を選任する。 <table><tr><th>項 目 名</th><th>電気保安技術者</th></tr><tr><td>1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者</td><td>・</td></tr><tr><td>2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者</td><td>・</td></tr><tr><td>3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者</td><td>・</td></tr><tr><td>4 旧電気工事技術者検定規定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者</td><td>・</td></tr><tr><td>5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者</td><td>・</td></tr><tr><td>6 第1種電気工事士の資格を有する者</td><td>・</td></tr><tr><td>7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者</td><td>・</td></tr><tr><td>8 第2種電気工事士以上の資格を有する者</td><td>・</td></tr><tr><td>9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学科以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者</td><td>・</td></tr></table> 工事用電力を構外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。 (1.3.5) [1.3.5]	項 目 名	電気保安技術者	1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	・	2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	・	3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	・	4 旧電気工事技術者検定規定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	・	5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	・	6 第1種電気工事士の資格を有する者	・	7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	・	8 第2種電気工事士以上の資格を有する者	・	9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学科以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者
項 目 名	電気保安技術者																				
1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	・																				
2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	・																				
3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	・																				
4 旧電気工事技術者検定規定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	・																				
5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	・																				
6 第1種電気工事士の資格を有する者	・																				
7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	・																				
8 第2種電気工事士以上の資格を有する者	・																				
9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学科以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	・																				
○ 施工条件	この工事現場では、次の施工条件による。 ●本建物は使用しながらの工事となるため、漏水対策ならびに、出入口等の使用に考慮した安全対策を講ずること。 ●本工事建物周囲には、研究棟が立地することを十分認識し、周辺への影響に配慮すると共に、安全にも十分配慮すること。 ●工事用地および工事用地周辺において適切な養生・清掃を行うこと。また、工事車両の搬出入時などに周辺道路等を汚損、破損等した場合は速やかに対応すること。 ●騒音・振動・粉塵の発生する作業は、低騒音・低振動・低粉塵工法を採用すること。 ●臭気・振動・粉塵の発生する作業は、原則、土日祝に実施すること。 ●臭気の発生する作業は、周囲に対して影響が少ない工法を採用すること。 ●構内の行事等により作業が制限されることがあるので、監督職員と協議の上、工程を決定すること。 ●工事車両の通行は交通整理員を配置する等、安全対策を講ずること。 ●その他建物内や敷地周囲に影響があると思われる作業については、監督職員と協議を行い進めること。 ●工事用地は、工事完成時には原状に復帰して返還すること。 <																				

現場説明付記事項

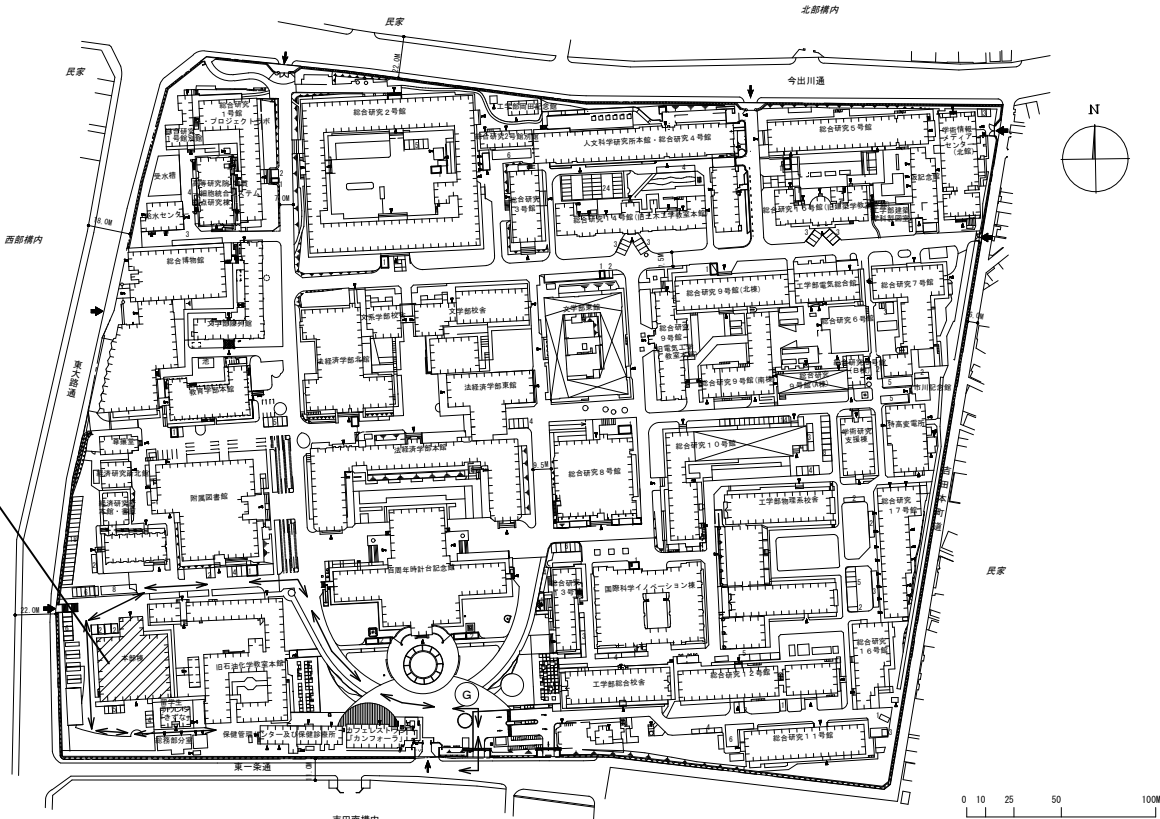
- 1 工事施工上の注意事項
- 1) 車両通行経路は、図示の通りとし監督職員と協議の上、誘導員等を配置し、交通整理を行うこと。
工事車両は周辺道路上での違法駐車は行わないようにし、また路上に縦列待機させることも行わないこと。
- 2) 工事用地は図示の範囲とし、危険防止のため関係者以外の出入ができないようにすること。また、工事関係車両（通勤車両を含む）は工事用地内に駐車することを原則とし、構内の駐車エリア、道路及び空地への駐車は行わないこと。
- 3) 学校行事・近隣地区行事を考慮して工事計画を立てること。
その他、学内の試験等による作業の中止については、監督職員と協議すること。
- 4) 撤去工事その他で大きな音、振動等が生じる場合は、あらかじめ監督職員に日時を連絡し、承諾を得て工事を進めること。また、施工中の防音対策を十分に検討し行うこと。
- 5) 教職員、学生等の通行が頻繁なため、構内車両通行には徐行の徹底等、十分注意するよう指導を行うこと。
- ~~6) 埋蔵文化財を発見した時は、ただちに工事を中止し、監督職員の指示を受けること。~~
- 7) 工事場所内に火災予防のため適切な数量の消火器を設置するとともに、工事関係者に対し、火気等の取り扱いに十分注意するよう指導を行うこと。
- ~~8) 突降となる地中埋設物を発見した時は、監督職員と協議の主撤去し、適正処分すること。~~
- 9) 工事用地は、除草等常に良好な環境を保持すると共に工事完成時には原状に復帰して返還すること。
- 10) 同一構内の他工事の業者と連絡調整を密に行い、安全かつ円滑な工事の実施に努めること。
- 11) 作業時間は、午前8時から午後6時を原則とすること。
- 12) 構内における喫煙については、監督職員と協議のうえ、健康増進法（平成十四年法律第百三号）第二十五条の五に基づく受動喫煙対策を講ずること。
- 13) 墜落防止にかかる、安全設備設置等、安全対策を実施すること。

- 2 工事中の構内安全対策について
- 工事中の構内安全対策については、下記事項を十分留意した上、具体的な安全対策等を立案し、監督職員と協議の上、承諾を受けるものとする。
- 1) 監督職員と協議の上、構内要所に工事予告板、警戒標識板、交通規制標識板、工事表示板、案内板等を設置し、常に良好な状態に保つこと。
- ~~2) 掘削時等で危険な状態となる箇所には、安全柵、工事中表示板（点滅灯付）を、夜間は保安灯及び赤色回転灯を設置し、安全な状態を確保すること。~~
- 3) 構内通行の安全及び騒音防止のため工事用車両は徐行すること。
- 4) 大型車両の構内通行に際し、地中埋設物、マンホール等が必要に応じ養生を行うこと。
- 5) 大型車両による作業の場合は必要に応じて交通整理員を追加増員し、誘導・交通整理等により構内の安全確保に努めること。
- ~~6) 仮囲いの設置に伴い、構内通路の視認性が確保できない場合は、常夜灯及びコーナ―部に透明パネルを設置するなど安全確保に努めること。~~
- ~~7) パネルゲートには電子音つき回転灯を設置するなど事故防止に努めること。~~



案内図 (NO SCALE)

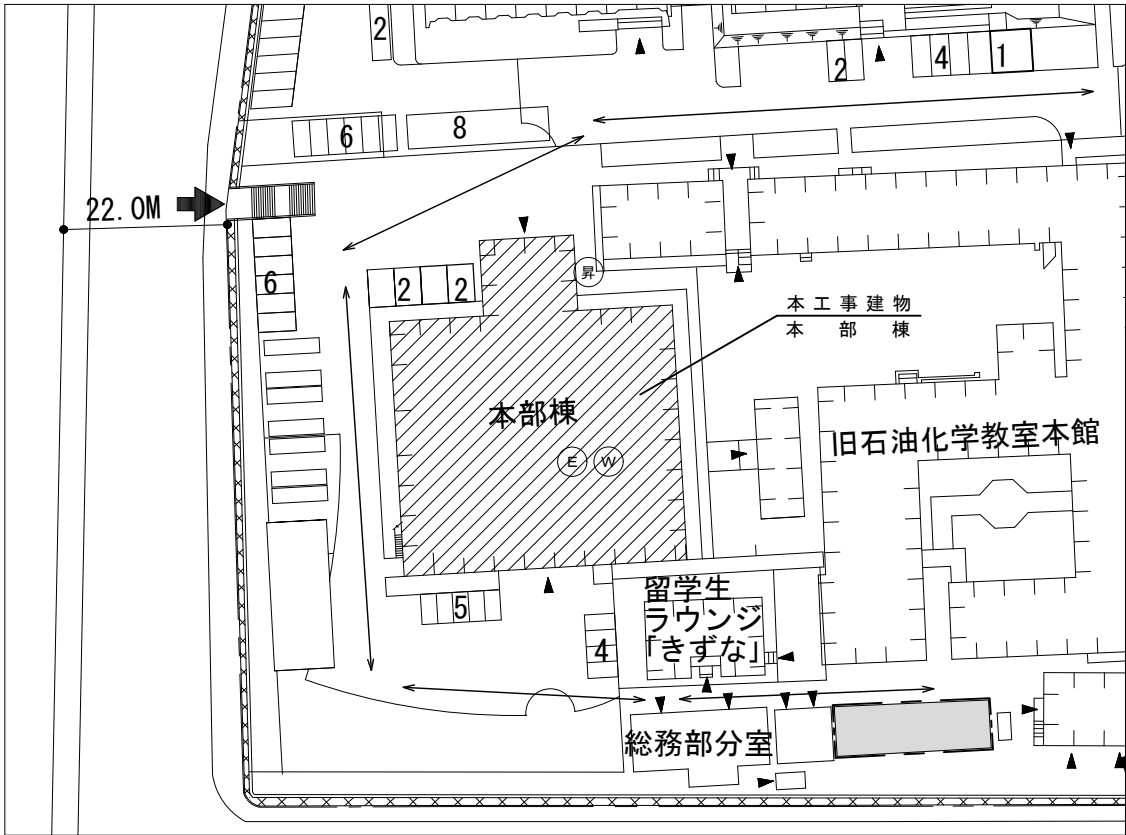
本工事建物
本部棟



構内配置図 (A1 S=1/2,000 A3 S=1/4,000)

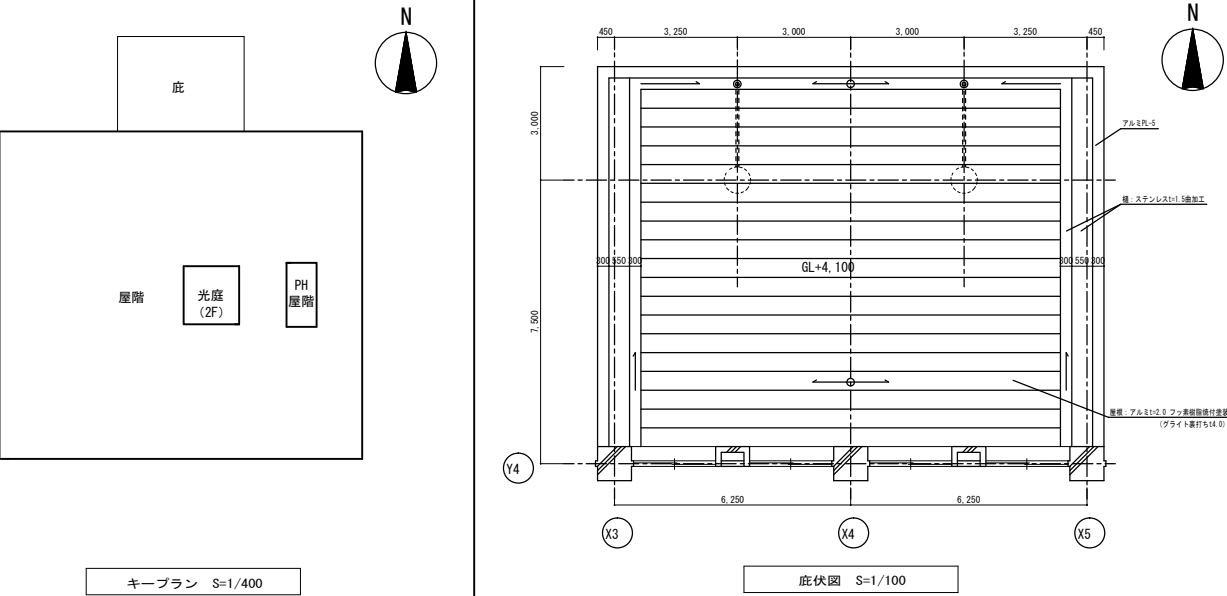
凡 例

	本工事建物
	工事用地 合計132㎡
	仮囲い(フェンスバリアード) H=1.8m 合計L=54m
	工事車両用進入経路
	工事用水道分岐位置
	工事用電力分岐位置
	交通整理員 (大型車両通行時)
	養生シート張 (くさび緊結式足場・昇降用) ※出入口部は、鎖等鍵付き施錠共 ※地上部は足場内侵入対策を行うこと



周辺配置図 (A1 S=1/500 A3 S=1/1,000)

工事名	京都大学（中央）本部棟屋上防水改修工事		図面番号
図面名称	案内図、配置図、周辺配置図	縮尺	設計日
		A1: 1/500, 1/2000 A3: 1/1000, 1/4000	令和7年6月



- 凡例

 - 機械基礎
 - ハト小屋 (A～D)
 - 避雷針基礎
 - ステンレス手摺基礎
 - アルミ製目隠しルーバー基礎
 - 既存ドレン残置の上改修ドレン新設
縦型、100φ、SUS製防塵網共
 - 既存ドレン残置の上改修ドレン新設
横型、100φ、SUS製防塵網共
- 防水改修共通事項

 - 既存防水層について、水洗いを行うこと。
既存シート防水：デッキブラシ等で水洗い。
その他：デッキブラシ等で水洗い。
 - 工事の際に支障となる機器・配管等は、別途工事にて作業可能な状態にするものとする。
 - アルミ製目隠しルーバーは下階の安全対策を行った上で、屋階から一時撤去・復旧を行うこと。
 - 鉄鋼製の屋外階段①は残置。

＜改修リスト＞

範囲	部位	改修前	改修後
屋階	平場	シート防水	既存シート防水を水洗いのうえ、ウレタン塗膜防水新設
	バラベット (光庭部分)	天端	アルミニウム製笠木
		立上り	シート防水
	バラベット (屋上部分)	天端・アゴ	塗膜防水、花こう岩張り
		立上り	シート防水
	機械基礎 避雷針基礎 ルーバー基礎	天端・アゴ	フッ素樹脂吹付
		立上り	シート防水
	ハト小屋	屋根・天端・側面	塗膜防水
		アゴ	フッ素樹脂吹付
		立上り	シート防水
	ステンレス手摺基礎	天端・アゴ	塗膜防水
		立上り	シート防水
塔屋 (PH屋階上部)	平場	シート防水	既存シート防水を水洗いのうえ、ウレタン塗膜防水新設
	バラベット	天端	アルミニウム製笠木
		立上り	シート防水
	コンクリート立上り	アゴ	フッ素樹脂吹付
		立上り	シート防水
庇	平場・軒裏	アルミ製 フッ素樹脂焼付塗装	庇水洗いのうえ、取り合い部分のシール打ち替え
光庭	平場	陶器質角タイル張り	既存床タイルを水洗い
	バラベット	天端・アゴ	フッ素樹脂吹付
		立上り	アスファルト防水のうえモルタルにて押え
	トップライト・換気チャンパー		網入りガラス、アルミ板t2.0

